研究Ⅲ「生物学者からみるポストコロナ社会はどうあるべきか」

藤島高校はSSHの取り組みとして、生徒諸君が「創造力を有した未来社会のリーダー」になるために、「研究力」と「厚みのある教養」を身につけることをねらいとした教科「研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業を行っています。今回「研究Ⅲ」の授業として、ポストコロナ社会を考える講演を実施しました。オンラインでの開催ではありましたが、活発な質疑応答が行われ、充実した時間となりました。

１ 目 的

研究Ⅲの単元「社会のあり方を考える」として、昨今の新型コロナウイルス感染症への対応に係る諸問題をとおして、答えのない問いを解決する態度を育成するために、専門家による講演を行い、社会に潜在する課題に気づく。

２ 日 時　令和３年４月１９日（火）６・７限　１３時５５分～１５時２５分

３ 講 師　本川達雄 氏（東京工業大学名誉教授）

４ 概 要

(1)講演の内容

・サイズの生物学から考える人類と現代社会のあり方について
・新型コロナウイルス感染症の拡大の仕組みと生物学的意義について
・新しい生活様式と持続可能な社会をつくることの必要性について

(2)生徒からの感想

・コロナの感染拡大とエネルギー消費、時間との関係が深く関わっているものだとは思わなかったので驚きました。新たな視点を得ることができました。
・私たちは、環境問題を解決しようという方向性を持っていても自分たちが不便な思いをすることは難しいと感じ、実際に行動に移すことはできていないという矛盾を強く突きつけられたように感じました。もっと未来の社会の事を考え「生物は永続するもの」という事を念頭に置き社会システムを変えていかなければいけないのではないかと感じました。
・今回の講義を通じて、物事に対して偏った捉え方ではなくいろんな分野を多角的に俯瞰的に見て自分なりに判断すべきなのだと思いました。